

I : SPACEact インストール手順と注意

I : 添付されている「新 LQ 法低次元化モデルの制御器設計」をデスクトップもしくは適切なホルダーにコピーしてください。また、同様に、「アクティブ制御用 SPACEact の紹介」ファイルをコピーしてください。

1.1: ソフトの解析コードを閲覧・修正→リボンに「開発」メニューを挿入する

メニュー「ファイル」→「オプション」→「リボンの設定」を選択し、メインタブに「開発」を挿入する

1.2: セキュリティを回避する

II : SPACEact をインストールする

2.1 SPACEact インストーラをクリックし、setup をダブルクリックしてインストールを行います。

ただ、先のバージョンがインストールされている場合は、それを削除する必要があります。削除にチェックを入れ、SPACE を削除してください。このインストーラで削除できない場合は、スタートボタンより「設定」を選択し、「インストールされているアプリ」で>を押し、登録されているアプリの中から「SPACE」をアンインストールを行う。

2.2 再度、setup で、インストールをしてください。

インストールの途中で、次のようなエラーが発生する場合があります。これは、ACCESS 用のドライバーが見つけれないことを表しています。データベース ACCESS は、モデラーでのみ使用しています。市販の VSFlexGrid を使用しているため、モデラーは 32bit 用になっており、本来、Windows/system/ SysWOW64 (32bit ODBC) には : 2 つのドライバーがあるはずですが、

- *Microsoft Access-Treiber (.mdb)** → これは古い Jet 4.0
- *Microsoft Access Driver (.mdb, .accdB)* → これが無い

上記の下ドライバーがない状態になっています。

そこで、上のダイアログで、「無視」を選択して、インストールを継続してください。これで、インストールは完了します。

上記のドライバーがインストールされているか、確認する方法は、Windows/system/ SysWOW64 内にある odac32 というアプリケーションを実行し、ドライバータブをクリックする。これで、上記のファイルがあるか否かが判別することができます。

2.3 動作確認してください。

上記のインストールで、「無視」を選択して、SPACEact をインストールしたときは、以下の動作確認をしてください。

DOWNLOAD 内のサンプルデータをクリックし、一番上の「3D_Model」をダウンロードし、そのデータを用いて、モデラーが立ち上がるかどうか動作確認してください。

2.4 もし、モデラーが立ち上がらない場合は、上記 2 つのドライバーが設定されていない状態です。

Windows が分かる人に相談して、ドライバーをインストールしてください。



Ⅲ：アクティブ制御用のテストデータをダウンロードする

SPACE のダウンロードで、「サンプルデータ」を選択してください。その中の「アクティブ制御解析用テストデータ」を選択し、

1：アクティブ制御解析用テストデータ No. 1

2：アクティブ制御解析用テストデータ No. 2

をダウンロード、解凍して、以下のようなファイル構成にして、

アクティブ制御器解析
1) AMD
2) セミアクティブ免振
3) アクティブブレース
4) 連結制振
earth

アクティブ制御解析を実施してください。

Ⅳ：SPACEact の動作確認

まず、添付の「アクティブ制御用 SPACEact の紹介」を見てください。解析方法の概略が分かるな図です。

全てのテストデータはファイルの大きさを考慮して、解析時間が 1.0 秒となっています。これを 15 秒以上で解析してください。ほとんどは弾性域で動作しますが、解析は弾塑性で行ってみてください。2 画面同期描画を行い、アクティブ制御の効果を確認してください。

注意 1：このソフトは Excel 用であり、VBA を使用して低次元化モデルを作成するソフトです。VBA は現在 Mrosoft 製の Office でのみ動作します。Microsoft Office を用意してください。

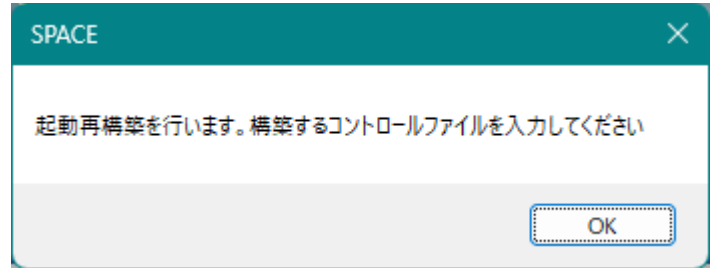
注意 2：ダイアログなどは画面解像度 1366x768 で設計されています。もし、文字表示がずれる場合は、解像度をこの比率に近い値で設定してください。

注意 3：SPACEact を実際に動作させる
とき、右側のエラー表示が出る場合があります。これは、既にこのコントロールファイルが読み込まれており、2 重に設定することを防いでいます。タイトルバーに表示されているコントロールフ

ァイルの表示を見て、次の動作を決めてください。既にこのコントロールファイルが設定されていることが多いです。



一方、解析データの設定ミスなどで、異常終了した場合、当該コントロールファイルが設定解除されていません。その際このエラーメッセージが表示されます。この場合、強制的に設定解除を以下の方法で行います。主メニューの「**I/O** データ」を選択し、プルダウンメニューの一番下の項目「コントロール」→「各モジュール起動復帰」をクリックします。右のダイアログが表示されます。「OK」ボタンを押すと、コントロール



ールファイルの入力画面が表示されます。そこで、設定解除を行うコントロールファイルを選択することで、設定解除が行われ、通常の操作に戻ることができます。

注意 4 : ダウンロードしたサンプル用のデータは全て動作確認をしています。ただ、データのコピーや圧縮・解凍をするため、まれに間違いが発生する場合があります。その際は、そのテストモデルを避け、他の解析を実施してください。最後に、その解析が実施できなかったモデルに戻り、なぜ、解析ができなかったかを検証してください。より深く SPACEact の仕様が分かるようになると思います。